

■ うるるユニット

ご採用事例

千葉県認可保育園
まほろばのお日さま保育園 様(千葉県千葉市)



～換気(給気)しながら加湿できる うるるユニット をご採用～

**加湿対策をすることで、子どもたちが安心して
過ごせる空間づくりを目指しています。**

納入設備概要

うるるユニット(無給水加湿ユニット)
HKCV11AV : 2台

当園は、千葉市に開設した認可保育園です。家庭的な雰囲気の中で様々な体験を通し、心身ともに健やかな成長を遂げ、「まほろば」の言葉通り、子どもにとって素晴らしい場所になる事を願い保育をしております。

ご採用の経緯

冬場の加湿対策は大変でした。

- コロナ禍でも子供たちの安全を第一に優先するために、こまめな換気や消毒、体温測定の徹底。また、空気清浄機を設置するなどの感染症対策を行っていました。
- さらに、厚生労働省のガイドラインである、適切な換気の実施に加え、屋内の湿度を「40%以上」に保つ必要があり、加湿対策として大判のバスタオルを濡らして干していました。



- バスタオルを濡らしての加湿対策は、保育士の重労働となっていたので、置き型の加湿器設置も考えましたが、定期的な給水タンクの交換作業が必要であったり、給水タンクの衛生面も不安でした。
- そんなときダイキンさんから、給水無しで加湿ができる機械を紹介いただきました。屋外の水分を屋内に取り込む無給水方式の「うるるユニット」であれば、バスタオルを濡らすことも、給水タンクを取り換えることも不要ということで「これしかない」と思い、導入を決めました。

使用してみたの感想

今後の使用が非常に楽しみです。

- 無給水で加湿ができるので仕事の負荷軽減につながると、保育士にも高評価です。結果的に保育士の仕事を軽減することが保育の質の向上につながっているように感じ、大変満足しています。
- その日の天候にもよりますが、「うるるユニット」を運転させると室内湿度は40%以上をキープしていますし、運転操作がリモコンボタンひとつでできるのもうれしいですね。
- 加湿だけでなく、換気(給気方式)もできるということで、今後の使用が楽しみです。



「うるるユニット」で冬の乾いた空気うるおいを加えて、室内を快適空間に。



目安の広さ: 1台あたり25m²~40m²

うるるユニット (無給水加湿ユニット)

給気換気
最大60m³/h

加湿
1,100ml/h^{※1}
(加湿運転: 風量「強」時)

「うるるユニット」は、ダイキン独自^{※2}技術の無給水加湿^{※3}により屋外の空気から水分を取り込み、給水なしで加湿。同じ室温でも、湿度を上げることで体感温度も上がるので、エアコンの設定温度を控えることができます。

加湿量は外気条件やリモコンの設定内容により変化します。

※1一般の加湿器とは加湿方法が異なるため加湿量は外気条件および機外静圧条件により変化します。

※1. 加湿能力測定条件 / 外気温度7°CDB、6°CWB (JIS定格暖房能力測定条件)、室内温度20°C DB、12°CWB、ダクト長(直管相当)2m×2本(φ150mm)の場合。 ●部屋の換気量が多い場合、設定風量小さい場合、建物の構造および空調機の設定状態等により、設定湿度にならない場合があります。 ●風量を強くすると加湿の音も大きくなります。 ●消費電力は、最大で約1900W。最大消費電力以下でヒーターをコントロールします。なお、加湿時の運転パターンはお客様の設定や部屋の広さ、換気回数、温湿度条件、機外静圧条件によって異なります。 ※2. 2020年2月1日現在。店舗・オフィス用エアコンとのシステムにおいて。 ※3. 一般の加湿器とは加湿方法が異なるため加湿量は外気条件により変化します。外気相対湿度が低い場合、機器保護のため運転を止める場合があります。外気が-5°C以下となる環境でご使用になる場合は、プレヒーターなどで予熱してください。また外気相対湿度が低下すると加湿量も低下します。

実験MOVIE

冬場の実使用環境での加湿の様子をご覧ください。

